

キリスト教保育

年主題 しゅイエスとともに

2026年8月1日発行（毎月1回1日発行）第689号



論説

特別な配慮が必要な
子どもたちの
理解と援助(1)

久保山茂樹

小論

感性の表現の芽生えと
造形表現

スクリブル(scribble)

照沼晃子

8

2026 AUG.

主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

聖書 口語訳聖書・エペソへの手紙5章19

音楽の歴史は人類の歴史と同じほどに古いと言われます。古代から多くの賢人が音楽の価値を強調してきました。

聖書においても旧約聖書の時代から、音楽が信仰生活に果たした役割がいかに大きかったかを知らされます。ことに西洋音楽の発達教会音楽を切り離して考えることはできないでしょう。

教会音楽は、キリスト者の礼拝、祈り、信仰生活との深いかわりの中で育てられてきました。それは何よりも、神を賛美し、告白する音楽であり、音楽による祈りであると言ってもよいと思います。ことに礼拝における賛美歌は、歌うことによって、会衆一同が同じ言葉、同じ思いをもって、神に答え、神に祈り、神を賛美するのです。

「詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い」(エフェソの信徒への手紙5:19)とあります。「詩」は英語のPsalms(詩編)の語源、「さんび」はhymn(賛美歌)の語源、「うた」はOde(合唱歌)の語源からなる語と言われます。すなわち、キリスト者が礼拝において、共に詩編を唱和し、賛美歌を歌い、合唱するということは、神への賛美、告白であると同時に、会衆一同の主にある語り合いでもあるのです。したがって礼拝にささげられるさんびの歌は、「御霊に満たされて」「心から」「主にむかって」歌えと勧められています。

幼子たちが、純心な気持ちで、喜びと感謝に満ちて、口をそろえ、声を合わせて、「さんびの歌」を歌うことによって、聖化された豊かな感情が育てられていくのです。

今日は、音楽的な優れた幼児の歌がたくさん作られています。しかしまた、他面において、勇ましくも騒々しく感じる音楽がある時代です。

子どもたちは、公害による自然の破壊とともに、音の世界でも騒音という公害にむしばまれています。美しい音の世界、神を賛美し、喜びと楽しみに満たされる音楽の世界を、幼子たちに心ゆくまで味わわせてあげたいものです。

小海 寅之助 執筆(当時・越ヶ谷幼稚園園長)

1973年『キリスト教保育』誌8月号より

新共同訳では「主に向かって心からほめ歌いなさい。」(エフェソの信徒への手紙5:19)です。一部省略、要約してあります。

幼子とともにキリストへ

キリスト教保育

第689号8月号



年主題 しゅイエスとともに

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉 生きるちから 貞末麻哉子

〈論説〉 特別な配慮が必要な子どもたちの

理解と援助(1)

—多様性を理解して尊重するために—

久保山茂樹

〈小論〉 感性の表現の芽生えと造形表現

スクリブル(scribble) 照沼晃子

図書紹介 安川千穂 石井良信

聖書に聞く・お話 田島靖則

【カリキュラム】

8月 月のねがい表

心にとめて 福島花菜

実践報告 のせこども園

実践からの学び 布村志保

心にとめて 清水真理

実践報告 宮内認定こども園

実践からの学び 岡田直美

絵本のとびら 名取亜希子

2

3

4

6

14

19

20

23

24

26

31

32

34

40

41

〈連載〉 こどもと工作 堀川 真

〈連載〉 みことばと保育 大瀧知子

目福口福耳福 近藤 良

成長が気になりな子どもたち②

橋場 隆

子どもの祈り

礼拝のお話テキストについて

加藤早恵

礼拝のお話 加藤早恵

風 桑原 泉 編集子

連盟だより

カット 中畝治子 小鯛みのり 藤安初枝

松成真理子 菰田とみ子 表紙絵 田中慎子

42

44

47

48

49

50

51

61

62

